

令和元年度 児童館 反省及び課題

高栄児童センター	三輪児童センター
<p>わんぱく広場の春と秋を同期化する事やチャイルドアドバイザーの先生の立ち位置をきちんと定める事が出来ずに前半は終えてしまう行事も多く、反省点も目立った。また、共催行事の話し合い不足も目立ち、職員間での連携を図れていない状態もあったので、来年度は話し合う機会を多く持つことや前もって準備し、それぞれが不安にならないように誰が休んでも対応できる状態に近づけることを目標にしっかりとした行事への取り組みを行っていききたい。</p>	<p>4、5月は来館人数が多く、予定していたプログラムがスムーズに行えない時も多々あったが、高学年の助けがあり、低学年が楽しく様々な活動にチャレンジすることができた。特に1年生は行事にも積極的に参加し、各場面で成長が見られた。乳幼児はプログラムを目的に、毎週4～5組の利用があり、保護者同士の交流の場にもなっていた。</p>
北光児童センター	美山児童センター
<p>小学生の活動については、前年度の反省を生かし、遊びを通して達成感を感じること、友達から認められる嬉しさを感じるなど子で児童の成長に繋げてゆくことを意識して行う事が出来た。また、行事の期間を見直し、時間を短くする、目的を子供たちにしっかり伝え一人一人が目標をもって活動に参加出来るよう職員間で情報共有しながら改善することが出来た。支援が必要な児童等には、目標を達成することで自己肯定感を高めることが出来るよう配慮する。しかし、人数が多い中での活動の為、個別の対応が出来ず活動自体に苦手意識を持ってしまいう児童がいた。次年度は、遊びの延長として活動が出来、苦手意識を持たないよう配慮してゆきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、行事の見直しを行う。季節や児童の成長に合わせた活動を心がける。 ・職員にも無理のない形で出来ることを精いっぱい行うこととし、児童の安心と安全に努める ・高学年らしさを課題に指導を行うことで、低学年にもルールを守る大切さ、人の話を聞く態度など、基本的な事を伝えていけたように思う。
緑児童センター	南仲町児童センター
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のプログラムや行事には、たくさんの参加があり、1年を通し充実していた。しかし、高学年の来館が多い中、児童センターでの過ごし方に課題点が多くルール等改めて指導した。 ・乳幼児プログラムについては、来館の人数にムラがあり、なかなか難しい状況であったが、来館の際には、乳幼児親子で交流する場になり、良い機会となった。 	<p>・どの行事も意欲的に参加する姿が多く見られた。次年度も子どもたちが楽しむことが出来る行事内容を考えていきたい。</p>
とん田児童センター	美芳児童センター
<p>今年度は利用数が少なく子ども達も落ち着いていたので、大きな事故や怪我もなく、過ごすことが出来た。利用数が少ないため、多くの活動を全員参加で行うことが出来た。子ども達のできるが増え、積極的に活動に参加する姿が見られるようになった。保護者からも、できるようになって喜んでいるという声が聞けた。乳幼児親子の利用が減ってきているため、次年度は水曜日のプログラムをやめ、毎日遊びの場所の提供を行うよう変更する。</p>	<p>年間を通して集団活動が難しく、行事や普段の活動についても学年ごとに分けるなどして活動を行った。乳幼児子育てふれあい事業については、北進保育園と合同のプログラム以外の来館が少なくプログラムの実施ができない日があった。</p>
三楽児童センター	東児童センター
<p>今年度は、職員の異動などで3人体制だった時期もあり年度途中から児童館での「毎日の活動」のやり方も変更して、単独行事同様に臨機応変にだれでもが活動を行えるようにした。子育てふれあい事業も、昨年担当が何度も代わったこともあり、人数も減少している中で月曜日の親子ふれあい事業は一時休止することにした。今後も体制が変わるので様子を見ながら活動を考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来館の時間差が大きく、安全に館まで来るよう何度も指導することが多かった。活動内では、自己中心的な言動が目立ち、繰り返し周りのことを考え行動するよう話をした。 ・物事に対し、一生懸命参加する姿がみられるので、個々の得意を伸ばし、苦手も少しずつ克服できるよう働きかけ、何事にもチャレンジする姿勢が身につくよう取り組んでいきたい。 ・乳幼児活動では利用が少なく、プログラムができない日が徐々に多くなっていったので、次年度からは来館状況にその都度対応し、親子が気軽に利用しやすい雰囲気を作っていった
小泉児童センター	相内児童館
<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動に慣れるまでに時間のかかる子が多く、プログラムや集団遊びに入っていけるようにどうすべきか試行錯誤した一年間だった。最終的にほとんどの子が集団行動ができるようになり、子ども自身も達成感を味わうことができたのではないかとと思う。 ・来館人数が落ち着き、好きな遊びをのびのびとできる環境になってきた。 	<p>相内小の児童数が減少する中で各行事への参加が少なくなっていた。また、職員が1名欠員となり、各行事などの担当など負担も大きくなっていった。次年度もこのような状態が続くとすると行事内容を変更していかなければならないと思う。子供たちが安心して活動できるようにすることは確保していききたい。</p>
東相内児童センター	上ところフレンドセンター
<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り等大きな行事では高学年が積極的に手伝いに参加することで、異年齢間交流の機会を設けることができた。日々のプログラムは児童が興味や意欲を持てるような内容を検討し、また、活動を通して社会性や相手を思いやる気持ちを育てる場となるよう心がけた。 ・地域との協力で実施されるスノーフェスティバルでは、今年は事前に地域との打ち合わせを行う機会が持てたため、準備や当日の進行をスムーズに行う事ができたが、参加人数の少なさや継続的に連携していけるか課題も感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的高学年の来館が多いが、自分達が楽しく遊ぶという事が最優先、という傾向がみられる。 ・低学年に対しての思いやりや気遣いを自然に出来る高学年に育てて欲しいと思う。 ・来年度はいろいろな活動の中で身に付く様な活動に取り組みたい。 ・全学年を通して子どもたちが、積極的にに参加する活動を考え実行していききたい。

令和元年度 児童館 反省及び課題

端野太陽っ子児童館	常呂児童館
<ul style="list-style-type: none"> ・一年を通し、季節を感じとりながら過ごす事が出来た。前半は高学年の利用も見られたが、後半は次第に見られなくなったので、高学年への取り組みも検討していきたい。 ・乳幼児子育てふれあい事業では、現状をふまえたプログラムの見直しを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日全員で行うプログラムを用意し、集団で遊ぶ楽しさが味わえる機会を多く持った。今年から児童館に来た子供たちは、初めて体験することが多く、はじめは不安な様子だったが、徐々に慣れていき、様々なことにチャレンジする姿が見られた。 ・四季が感じられる季節に合わせたプログラムを取り入れ、様々な体験活動ができるよう工夫した。
留辺蘂児童館	温根湯温泉フレンドセンター
<p>児童が自ら考え行動できる力をより育成できるよう活動を展開していきたい。児童からの意見を取り入れ、児童主体で行う行事も増やしていきたい。楽しい、できたという経験を通し、自信に繋がられるよう意識しながら育成していきたい。乳幼児の人数が減っているので、来年度の乳幼児ふれあい事業は自由遊びに変更して取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つの行事を楽しんでほしかったのでプログラムをわけ、子ども達が集中しやすいように努めた。今年は菜園活動にも積極的に行い、食べ物の大切さなど子ども達にとっても良い経験となったので、来年度も力をいれていきたい。 ・季節ごとの活動を前年度よりも取り入れ、子ども達が楽しく参加できていたので来年度も続けたい。